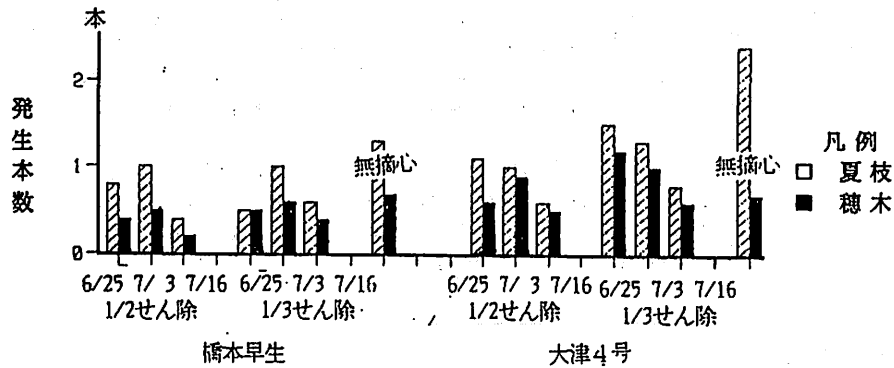


課題名	14 無毒化苗木の変異性検定および育苗改善技術	分類	②
	(1) カンキツ穂木大量生産のための適正な摘心方法		
試験研究年次	62 ~ 2年 (完了)		
I 目的			
カンキツ穂木を大量に生産するための、最適な摘心条件を明らかにする。			
II 試験方法			
1 供試材料			
62年には、堂脇早生、橋本早生、興津早生、大津4号、マーコット3~4年生、63年~2年には、橋本早生、大津4号を供した。各品種とも屋根掛け網室内に植栽。			
2 処理方法			
(1) 摘心効果の品種間差			
5品種を供し、摘心の程度を春枝先端を1/2せん除、1/3せん除、無摘心の3区とし、62年7月22~24日に設定した。			
(2) 摘心時期と程度			
時期は、63年は6月24日、7月5、13日、1年は7月3、18日、8月1日、2年は6月25日、7月3、16日とした。程度は、(1)と同様に行った。			
調査対象の春枝は、設定時の長さが20cm以上のものとした。62、63年は1樹単位、1、2年は1枝単位で処理区を設定した。			
施肥は、10a当たり成分量で窒素30kg、燐酸24kg、加里25.5kgを6月と3月に分施した。穂木は充実良好なもので基部の口径が4~8mmのものを対象とした。			
III 主要成果の概要			
カンキツ穂木の生産量を高めるためには、樹勢の弱い品種では無摘心、樹勢の強い品種では6月下旬~7月上旬に、春枝先端から1/3程度の摘心を実施すると良い。			
1 摘心効果の品種間差は、品種自体の樹勢の強弱により異なる。‘堂脇早生’、‘橋本早生’、‘興津早生’は摘心により夏枝の発生は多くなるが弱小枝が多く、穂木の生産量は低い。‘大津4号’、‘マーコット’は摘心により穂木の生産量が多くなる。			
2 樹勢の弱い‘橋本早生’は摘心の時期が遅れると、また摘心程度が強いと穂木生産量は減少する。樹勢の強い‘大津4号’は、6月下旬~7月上旬に摘心を実施すると穂木生産量は多くなるが、7月下旬以降になると摘心の効果はなくなる。摘心の程度は1/3せん除で穂木生産が多くなる。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 春枝摘心による穂木の生産 (62年)

品種名	処理区	調査	夏枝	穂木率	1樹当たり
		春枝数	発生数		
		本	本	%	g
堂脇早生	1/2せん除	152	1.2	43	24
	1/3せん除	134	2.2	31	25
	無摘心	123	0.9	54	46
橋本早生	1/2せん除	47	1.4	75	18
	1/3せん除	56	1.8	39	12
	無摘心	61	0.8	74	27
興津早生	1/2せん除	110	1.5	65	35
	1/3せん除	111	1.1	73	35
	無摘心	132	0.5	80	43
大津4号	1/2せん除	99	1.1	86	63
	1/3せん除	87	1.3	82	80
	無摘心	82	0.3	75	22
マーコット	1/2せん除	116	1.8	71	101
	1/3せん除	68	3.2	61	84
	無摘心	120	0.8	73	43



第1図 春枝当たり夏枝、穂木発生数 (2年)

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 カンキツ苗木生産において、穂木の大量生産技術として利用できる。
- 2 摘心の効果は、品種の樹勢により異なるので樹勢の強弱を把握しておく必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

枝内成分と新梢発生との関連。

VII 資料名

- 1 63, 元年度福岡県農業総合試験場果樹苗木分場試験成績書
- 2 元, 2年度常緑果樹試験研究成績概要集(農林水産省果樹試験場編集)
- 3 九州農業研究 第51号 平成1年 8月